

高美小学校 TM だより

R7.6.9. NO.11

校内授業研究会がありました。4年生、6年生ともに「はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成」に向けて、実践を行いました。

★4年生 社会・総合

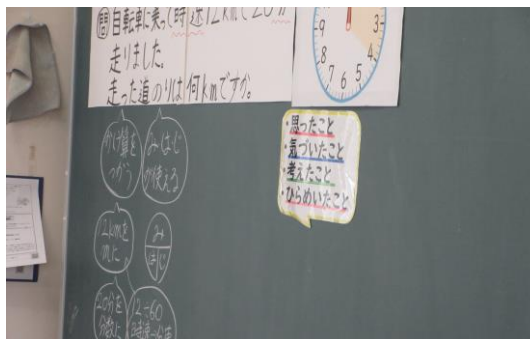
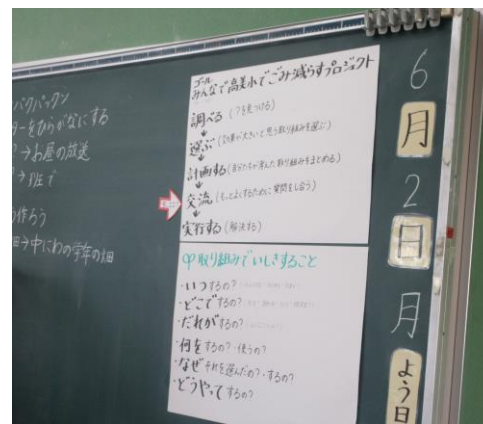
「健康な暮らしを守る仕事～ごみの処理と活用」

子どもたちが中心となり、学習課題を設定し、学習の進め方を考えました。本時では、自分たちが考えたプロジェクトの発表と意見交換を行いました。お互いのプロジェクトの内容を聞き、質問やアドバイスをしあうことで、より考えが深まることをねらいとしていました。子どもたちが見通しをもって学習を進めることができるよう、子どもたちと確認しながら作成した、単元の計画表を掲示し、自分たちの現在地が確認できるように工夫されていました。ここで出し合ったプロジェクトの中から、実現できそうなもの、特に効果が期待できそうなものについては、今後の学習を通して実現させていくとのことです。自分たちで見つけた課題を、自分たちで解決しようとする姿をみることができました。

★6年生 算数

「分数×分数」

子どもたちの気づきや疑問、ひらめきをふきだしに書き込み、全体で共有したあと、子どもたちから出た言葉からめあてをたてるという指導を実践されていました。ふきだしにすることで、子どもたちは自分のペースで問題と向き合うことができました。5年生のころの学習を思い出したり、問題を解くカギになりそうな言葉を書き出してみたりと様々でした。中には、自分でふきだしどうしをつなげ、考えを広げている様子も見られました。自力解決をする時間では、それぞれが思う方向から問題にアプローチしました。その後多様な解決のしかたを交流し、考えを深めました。



★研究協議会★

授業後、研究協議会を行いました。それぞれの授業について出た意見をまとめました。
4年生…プロジェクトを考えるという取り組みはよい。お互いに質問や意見を言い合うことはマイナスではないということを再度確認しておくことよい。ふりかえりを書かせる際には、感想を書いて終わるのではなく、より具体的な代案や、アドバイスを書くことができるように、ある程度「型」を示しておくことも大切。
6年生…ふきだしを書かせる前に、どんなポイントに気づかせたいか、疑問をもたせたいか明確にしておく必要がある。問題を解きたいと思わせる仕掛けが必要。ヒントカードを使う場合は、どのタイミングで出すかを考える必要がある。ふきだしをイメージマップのようにしている子のノートを共有するとよい。

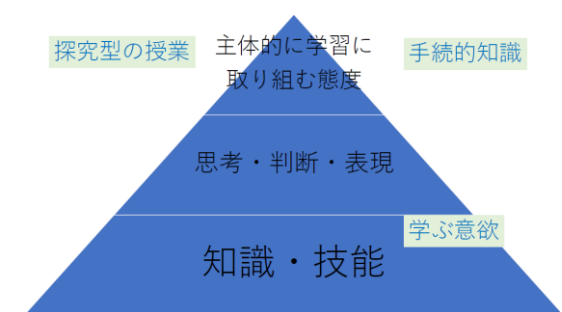
★講師 大阪大谷大学 今宮教授の講義★

- ・「知識技能を習得→それを使って思考判断表現→探究的な将来にわたる学びへ」という学習から「プロジェクトをやってみる→話し合い、発表を通して知識を得る」という学習へ
- ・子どもたちに「面白そう」「学びたい」と思わせる導入が重要
- ・自由に進度を調節する学習よりも、自由に深度を調節する学習のほうが高美小学校にはふさわしい
- ・他者の考えから、再認識、再発見、創造することが、協働的に学ぶ意味である
- ・分かったことは伝えたい。→問いをもつ生活
- ・話を聞きたいこどもを育てる→みんなで問いを解決する姿勢
- ・問いへ答えたい気持ち→課題解決、問題解決学習になっていく

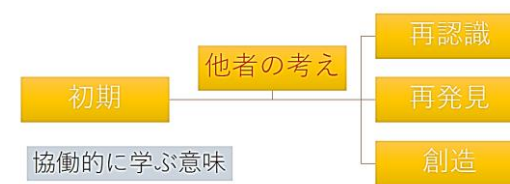
★まとめ★

- ・子どもたちが自ら学習に取り組む姿勢を育てるために、導入を工夫した授業づくりをすることが大切
- ・活動がより活発になるよう、指導内容からはずれることのないよう、教師の働きかけが必要

多くの学びがある授業研究会となりました。子どもたちの学びに向かう姿勢を育てるために、よりよい授業づくりができるようこれからも取り組んでいきたいと思います。



考えの再構築（個人の意見）



対話を創る「自分のことばで発表する」

